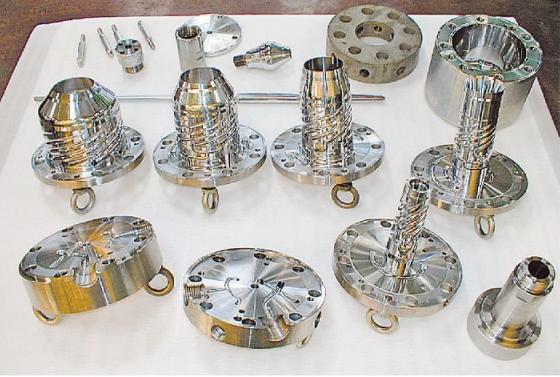


産業機械メーカーの協和ファインテック(岡山市東区金岡西町)は、フィルムやチューブなどの生産に用いる押し出し成形機器の製造事業に参入した。原料の樹脂を成形する金型の設計、製作を中心に、生産ライン全体の構築も手掛ける。樹脂製品の高度化に伴って拡大する成形機器のニーズをつかみ、新たな事業の柱に育てる。(伊東圭二)



押し出し成形は、ゲル状の樹脂に高圧をかけ、金型内部の流路を通過ぎながら固めて均一な形にする加工法。薄く精密な形状や、複数種類の樹脂を積層させた高機能品が造りやすく、工業用フィルムや食品容器などの製造

押し出し成形に用いる金型パーソン。細い穴や渦巻き状の溝が樹脂の流れ

で普及している。

同社の機器は、耐熱性に優れたフッ素樹脂

製のフィルムやチューブ、人体に負担が少ない植物由来樹脂を使つ

た手術用の縫合糸とい

った高付加価値製品の

製造向け。フィルムは

印刷機のローラー部分

に、チューブは化学工

場の配管内部などに使

た。金型などを単体で

販売するほか、樹脂を

金型に圧入する他社製

装置と組み合わせたラ

インとして供給する。

価格はフッ素樹脂用の

標準的なラインで2千

万円程度。2020年

に年20億円の売り上げ

を目標とする。

協和ファインテック

は1955年設立。資

本金3700万円。売

上高約22億円(15年2

月期)。従業員180人(パート含む)。

# 押し出し成形機器参入



協和ファインテックが製造する押し出し成形機器の一例

のうち金型は、固く加工が難しいニッケル合金などを100分の1ミリ単位で切削した複数

のパーソンで構成。効率的な流路を設計した同社の機器は、耐熱性に優れたフッ素樹脂の小型化や素材の多様化に伴い、押出し成形機器は需要が拡大しているという。ギアポンプや延伸機などは、主力とする合成繊維製造装置の技術が応用できることから参入を決めた。

橋本宗幸専務は「押し出し成形機器は製品ごとに受注するケースが多いため大手が参入しにくい分野。独自技術で販路を開拓したい」と話している。

協和ファインテックは1955年設立。資金3700万円。売上高約22億円(15年2月期)。従業員180人(パート含む)。

# 高付加価値製品向け

金型の設計、製作も

高付加価値製品向け

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。